

## 令和4年度文化財保護協会研修旅行 報告!

待ちに待った文化財保護協会の研修旅行を10月29日(土)に日帰りで行いました。ここ数年コロナや色々な事情で研修旅行が実施できませんでしたが、執行部の役員の方々の努力によって開催することができました。特に副会長の水上精榮氏、会計の上村強氏には大変お世話になりました。

行程は高鷲振興事務所前に集合して、下呂市金山町の「祖師野の宮」へ向い、次に同じく馬瀬にある「岩屋遺跡」、昼食を「美輝の郷里」で取り、午後は鷲見氏と関係のある高山市清見町の「檜谷寺」、最後に高山市城山にある「照蓮寺、高山城址を見学して帰路に着きました。参加者は8名でしたが、充実した中身の濃い研修でしたので、その研修旅行について報告をします。

**祖師野の宮** 荘厳な杉の大樹の林(県天然記念物)の中に、祖師野八幡宮は檜皮葺の本殿・幣殿・拝殿(いずれも県指定文化財)が静かに建っています。養和元年に鎌倉の鶴岡八幡宮から勧請した宮で、応永22年に現在の地に移されたと云われ、大変文化財が多くある神社です。また郡上踊りの「かわさき」に次の文句にある。

“踊らまいかよ祖師野の宮で 四本柱を中にして”

“祭見るなら祖師野の宮よ 人を見るなら九頭の宮”

なお、金山町祖師野は江戸時代まで郡上郡に属していたと云われています。



祖師野八幡宮

**岩屋岩蔭遺跡** この遺跡は、左右から大岩が覆い被さるように寄りかかっており、中に岩屋神社本殿が鎮座しています。「人身御供の身代わりになった悪源太義平(源頼朝の異母兄弟))が、ヒヒを追いつめてこの岩蔭で退治した」という伝説が残っている縄文時代の遺跡です(県史跡)。周辺にはいくつもの巨石が並んでいます(金山巨石群)。縄文時代の太陽観測台で、夏至や冬至、春分や秋分の季節の節目の時期を巨石群と太陽の光が差し込む関係から分かるというものであります。しかし、岐阜県の岩屋岩蔭遺跡発掘調査では「当時の縄文人が狩猟のキャンプ地に使った場所」と結論を出し、縄文人が巨石を住居に使った同じような遺跡はほかにもあります。つまり、古代太陽暦観測台と考えるのは疑問であります、人々の想像を膨らませる不思議な・神秘的な巨石群であります。



岩宿岩蔭遺跡



金山巨石群



## 檜谷寺

昼食後は、馬瀬から市道の細道から国土 257 号線を通り、高山市清見町檜谷にある鷺見氏ゆかりの寺を見学しました。当時の檜谷は「気良の庄」と呼ばれ馬瀬川の上流にあります。そこを鷺見家六代鷺見忠保の弟の鷺見保憲が開墾し、その孫の彦太郎善保の三男彦次郎が檜谷寺を開基しました。彦次郎は文明 3 年に越前吉崎に赴いて蓮如上人に帰依し、善宗の法名と六字名号を授与され、檜谷に道場を構えたのが始まりでした。善宗は後に蓮如の三大坊主とも称されるようになり、飛騨真宗の布教に貢献したそうです。なお、保憲は忠保の子が幼少であったのでその後見人として第八代城主となり、足利直義方で戦功を上げますが、晩年は狩猟と土地開発に力を注ぎ、檜谷を開墾します。

現在の檜谷寺は、檀家が 40 軒で、寺の人の名字は鷺見ではなく、大檜というそうです。私たちが訪れると田舎のひっそりしたお寺のたたずまいの中、お庫裏さんが優しい顔で迎えてくれ、ご住職が不在のため、分かる範囲内でお寺のことを説明していただいた。お別れするときは、私たちが立ち去るまで静かに見送っていただきました。



檜谷寺山門前で記念撮影

## 照蓮寺

10 月末の日暮れは早く、私たちが高山市城山にある照蓮寺に着いた頃は太陽が西に傾きかかっています。

後鳥羽上皇に皇子と伝えられる可念坊善俊は鳩ヶ谷に道場を開きますが、後に中野に移って照蓮寺といい、中野御坊と呼ばれていました。しかし、この地が御母衣ダムの湖底に水没することになった昭和 35 年に高山市の現在の地に移築されました。今の本堂は長享 2 年とも永正元年に建立されたと伝えられています(国指定重要文化財)。なお、おさ欄間をはめ、内陣の間仕切りを襖とする従来の寺院建築



照蓮寺中門前にて記念撮影

と異なり、住宅建築の要素を入れた江戸時代の浄土真宗寺院にみられる原型の様式であります。また中門も本堂と同時に移築され、四脚門形式の簡素な門です(県指定重要文化財)。

照蓮寺では住職が不在なため説明がなかったが、参加者の解説でよく分かりました。なお、帰り際に庫裏を見ると、屋根がはかかなり痛んでおり、修繕が急がれると思われた。

快晴の中、予定通り時間内に高鷺振興事務所に到着し、解散式を行ってそれぞれ無事に帰宅されました。 ごくろうさまでした！